

キラリ！築山っ子

文責：本島

きちんとしなさい？ちゃんとしなさい？〇〇しません！

運動会では当日までの子ども達の健康管理から、当日の応援まで大変お世話になりました。今回は、「具体的でわかりやすい指示」について考えてみたいと思います。子どもたちに関わる時にこんな言い方をしたことはないでしょうか？



「きちんと」手を洗いなさい！
「ちゃんと」あいさつをなさい！
廊下は走りません！

よく言ってしまいがちな指示の出し方ですね。この言い方で先生や親の思いは伝わるでしょうか？



この中で例えば…「きちんと手を洗う」とはどのようにすると「きちんと」になるでしょうか？みなさんの「きちんと」を出してみましょう。

わたしの「きちんと手を洗う」は、
1. 水で手を濡らして
2. 石けんをしっかり泡立てて
3. 手の裏表、手首を10秒ずつ
4. 爪の間をブラシでこすって
5. 泡を洗い流して
6. タオルで拭き上げる です。



いえいえ、そんなゆっくりしてる暇はないから、
1. 手を濡らして
2. 石けんの泡で手を包んで
3. 泡を洗い流して
4. タオルで拭いたらOKです。

(※みなさんの「きちんと手を洗う」はどうですか？)

AさんBさん以外の「きちんと手を洗う」もあると思います。石けんを使わなくても水で手を流せばOKと言う人もいるかもしれませんが、もっと丁寧に洗うのが「きちんと」だと言う方もいらっしゃるかも。「きちんと」という言葉のイメージは似ていても、レベルは人それぞれ違うということです。

では「きちんと手を洗いなさい。」と言われた子どもはどうでしょう？「石けんを使わなくても、水で洗い流せば大丈夫。」と思っている子どもなら、



「きちんと」手を洗っているのにどうして怒られるんだろう？

と、「自分なりにきちんと頑張っているのに、さらに『きちんと洗いなさい!』と叱られる」ことになります。

「きちんと」「ちゃんと」は抽象的でわかりにくい指示です。

特に発達障がいのある子どもたちは抽象的な指示は伝わりにくいと言われます。「自分の『ちゃんと』や『きちんと』はどれくらいのレベルなのか」を書き出してみるのも面白いですね。

言葉だけの指示も抽象的になりがちです。伝えたいことを箇条書きにして示すだけでも伝わり方は違うようです。(視覚的な支援はとても有効です。)



「抽象的な言葉を使ってはいけない。」ということではありません。わかりにくい言葉を使う際には、その具体的な項目を事前に伝えてあげることが大切なのです。そうすることで子どもは「どうすればよいのか」がわかり、大人は「褒めるポイント」がわかりやすくなります。結果的に適切な指導や褒めにつながるのです。

同じように「〇〇しません」という否定語による指示もわかりにくいものです。

「廊下は走りません!」→「廊下は静かに歩きます。」

「授業中はしゃべりません!」→「先生が話している時はしゃべらず話を聞きます。」など、否定語で終わらず、望ましい行動を付け加えて指示することで「どうすればよいか。」が正しく伝わります。これも発達障がいのある子どもたちにとってはわかりやすい指示になります。ということは他のみんなにとってもわかりやすいということですね。

手洗いという行為をAさんBさんのように細かく分けることを「課題分析」と言います。「手を洗えない」といった子には、このように行動を分割して「どの部分ができていて、どの部分が難しいのか」を考えます。私たちがどれくらいその子に対して困難なことを要求しているのわかりますし、どこを支援してあげたらできるようになるかがわかります。